

笠建産発第36号
平成15年1月17日

木津川上流工事事務所所長 様

京都府笠置町長 中西 巖

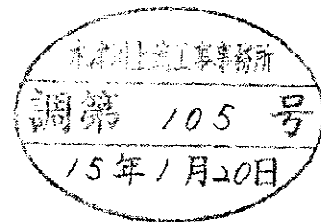
平成15年1月8日付け事務連絡については下記のとおり報告します。

淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料(第1稿)に対する意見

本計画資料は提言に基づいた水質や生態系を配慮した総合的な河川環境の保全・回復を目的としたものとなっているが、本町域にも関連するものの中で、下記のことについての説明は非常に大切な部分と解するので明確にする必要があると考えます。

①1. 1河川形状について(P5・P8)

河川整備の方針・具体整備内容ともに環境に配慮した考え方となっているが、何時時点の河川断面(状態)をもって修復と考えているのか？また、2. 5土砂について移動の連続性確保についてもダム内の浚渫等を完全に施工してからでないでないと現況より粗悪な河川環境にならないか？



参考

①についての説明(建設産業課)

約 30 年前は、まだ学校にプールも無く木津川で泳ぐのが当たり前だったが瀬、淵は今の2倍くらいの深さがあり、またワンドもたくさんあった。年輩者の話では、それ以前はもっと深かったと聞いている。度重なる台風や集中豪雨による洪水により上流部の土砂が淵に溜まりその後瀬を浅くしていった。今では、水質の悪化等により生態系も変化し、当時では当たり前のように見かけた鮎もどきやシマドジョウなども今では全く見る事はありません。植物についても以前とは違った藻や水草が生えているようです。